Akita University

巻　頭　言

大学と情報セキュリティ

情報統括センター長
近　藤　克　幸

ビッグデータやクラウド、IoT、そして AI。IT を取り巻く流行言葉が次々と耳に入ってきます。IT を取り巻く環境は今後、どのように変わっていくのでしょうか。IT が人々の暮らしをますます良くしていくようにも思えます。一方、頻発する情報セキュリティインシデントを眺めるに、私たちの社会はこのまま IT に依存して行っても大丈夫なのだろうか？とも思えます。

大学はこれまで、比較的自由な環境のもとにインターネットをはじめとする IT 資産を活用してきましたが、最近は大学を取り巻くセキュリティ関連事案が急増し、そうも言っていられなくなってきました。大学の情報セキュリティについて、文部科学省が本年度のように何度も強い指導を行ったことは、これまでにはなかったと思います。

しかし、後ろばかり向いてはいられません。厳しい環境になったのなら、それに耐えるだけのシステム作りをしていかなければなりません。秋田大学では、本年度から来年度にかけて全学情報システムやネットワークの更新が行われています。予算上の制約はあるものの、できるだけ強固なセキュリティを確保できるよう、機器の構成についても検討しています。ただし、忘れてはならないことがあります。いかに最新の情報機器と言えども、その機能だけで全てを完璧に守ることは不可能です。利用者自身も鋭敏な感覚を持ち、危険を察知したり、防衛しようと言う意識を持たなければ、大学全体としての強固なセキュリティを確保することはできません。

今年度はセキュリティセミナーの開催方法や内容を大幅に見直したり、標的型攻撃メール訓練などの新しい取り組みをはじめました。情報統括センターでは今後も、時代に即した対策を検討していきますので、教職員や学生はもちろん、本学と何らかの関わりのある方々におかれましても、ご理解ならびにご協力をよろしくお願い申し上げます。